令和7年11月7日

報道関係各位

令和7年度有田市文化賞受賞者が決定

令和7年度有田市文化賞受賞者が決定いたしましたので、お知らせします。

有田市文化賞は、文化の発展に貢献したと認められる個人または団体に対し、その功績をたたえ市長が表彰するもので、本市における地域文化の向上と振興を図ることを目的に平成5年度に制定、今回で33回目の表彰となります。

表彰式は次の日程で行います。

【有田市文化賞表彰式】

■日時／11月13日(木) 午前10時～

■場所／有田市文化福祉センター

■受賞者

文化賞　　宮本　和明(みやもと　かずあき)氏

文化功労賞　脇中　範生(わきなか　のりお)氏

文化奨励賞　夏見　起久子(なつみ　きくこ)氏

糸我千寿会手話ソングチーム

---------- この件に関するお問合わせ先 ----------

〒649-0392　和歌山県有田市箕島50
有田市役所秘書広報課
担当:橙木
TEL:0737-22-3715　FAX:0737-83-2222
Email:hisho@city.arida.lg.jp

令和７年度

受　賞　者（敬称略）

文　化　賞	宮本　和明
文化功労賞	脇中　範生
文化奨励賞	夏見　起久子
	糸我千寿会 手話ソングチーム

文　化　賞

宮本（みやもと）　和明（かずあき）

※令和元年　有田川町絵本コンクール 2019 優秀賞受賞
※令和３年　有田市文化功労賞受賞
※令和３年　第 38 回日産童話と絵本のグランプリ　絵本の部優秀賞受賞
※令和４年　第３回安城市新美南吉絵本大賞入賞
※令和５年　第 44 回講談社絵本新人賞受賞

昭和 39 年、有田市に生まれる。現在、宮原町在住。

令和３年に有田市文化功労賞を受賞後も、その創作活動において一層の研鑽を重ね、深い感受性と確かな技術で、多くの人々の心に優しい光を灯し、希望の種をまくような作品を次々と発表している。「あおくんふくちゃん」をはじめとする絵本は、読者の心に深く響き、広く愛される存在となっている。

絵本作家としての活動にとどまらず、絵画ワークショップの講師や地域行事のポスター制作、さらには校歌のイラスト提供など、地元からの幅広い依頼に応じ、そのすべての活動が有田市の文化的な発展に大きく寄与している。特に、絵本やイラストが市内の教育現場に与えた影響は計り知れず、これからの有田市を担うこどもたちの心身の豊かな発達に対する貢献は、地域の未来において極めて重要な役割を果たしている。

また、埼玉県、神戸市、有田市で開催された絵本原画展は、各地で高い評価を受け、地域の文化的な魅力を発信する重要な役割を果たしている。家業との両立の中で、新たな作品の創作に情熱を注ぎ、たゆまぬ努力で磨き上げた技と感性にさらに研きをかけ、絶えず進化し続けている。

その功績は単なる作品の完成度にとどまらず、創作を通じて地域社会の文化活動を支え、次代を担うこどもたちの心を豊かに育むための礎となっている。今後もその影響力は計り知れず、有田市をはじめとする地域文化の振興に多大な貢献をし続けることは疑いようがなく、その功績は誠に顕著である。

文化功労賞

脇中（わきなか）　範生（のりお）

※令和２年　有田市文化奨励賞受賞
※現代歌人協会会員
※日本歌人クラブ会員
※和歌山県歌人クラブ委員
※毎日新聞「紀州歌壇」選者
※林間短歌会　代表
※有田市文化協会副会長・文芸部部長

昭和18年、有田市に生まれる。現在、初島町在住。

14歳で短歌の世界に魅了され、美しい日本語と日本古来の習慣を大切にすることを信条に創作活動を続けている。

脇中氏は「物事の見方はいろんな角度から見ることが大切で、同じ事柄でも視点を変えると、全く異なる景色が見えてくる」と語り、この独自の視点が歌作りの源泉となり、同じ題材でも、異なる歌を生み出すことを追求し、新たな発見を続けている。

70年以上の歴史を誇る名門短歌結社「林間短歌会」の代表を務める一方、短歌雑誌「短歌研究」や「歌壇」などにも積極的に執筆するなど、全国的に幅広く活躍している。

平成５年に第１歌集「いのち綱」、平成15年に第２歌集「改植」、平成24年に第３歌集「銭の降る音」、令和３年に第４歌集「水の切先」を発表。令和２年には有田市文化奨励賞を受賞し、以後も年間300首程度の歌を詠み、精力的に新作を発表している。

平成11年に和歌山県文化奨励賞を受賞した「和歌山県歌人クラブ」では過去に会長、現在は委員としてその指導力を発揮。また、市内の「群鈴短歌会」や「有田短歌会」などでも多くの生徒が師事し、短歌の普及と後進の育成に尽力している。

さらに、有田市文化協会副会長を務め、会誌「文協」の編集委員としても長年携わるなど、現在も地域での指導や歌誌の編集・発行に取り組みながら、変わらぬ情熱で創作活動を続けており、その貢献は本市の文化振興と発展に計り知れない影響を与えている。

文化奨励賞

夏見（なつみ）　起久子（きくこ）

※有田市文化協会 郷土史部副部長
※有田市語り部の会所属

昭和18年、大阪市に生まれる。現在、宮原町在住。

熊野古道の歴史や史跡に深い造詣を持ち、平成28年から「有田市語り部の会」の会員として活動を開始する。定期的に有田市を散策される来訪者のガイド役を務めるほか、「時さかのぼる歩き旅」などのイベントを通じ、有田市の歴史や地域文化遺産の魅力を伝え、その継承に尽力している。

また、旺盛な好奇心と探究心をもって郷土史の研究にも熱心に取り組み、有田市文化協会郷土史部には設立当初から所属し、継続的に活動している。

俳句の分野では、平成８年から俳句結社「氷室」や地域の俳句教室「宮原俳句会」に参加し、長年にわたり同人として研鑽を積んできた。その豊かな経験と確かな鑑識眼が評価され、今年度より有田市文芸大会の審査員に就任しており、今後のさらなる活躍が期待されている。

さらに、有田市文化協会の機関誌や市制70周年記念誌の編集委員も務め、地域の歴史や文化の記録保存にも貢献している。

こうした幅広く継続的な活動を通じ、地域文化の振興と発展に大きく貢献している。

文化奨励賞

糸我千寿会
手話ソングチーム
代表　宮井（みやい）　紀代（としよ）

糸我千寿会手話ソングチームは、平成19年に５名で発足し、手話と音楽を融合させた「手話ソング」を通じて、地域に温かさと活力を届けている。現在、90歳代の会員を含む10名が所属し、手話辞典を片手に日々練習を重ね、精力的に活動を続けている。

代表の宮井氏は、こどもたちへの読み聞かせ活動を通じて、言葉だけでは伝えきれない感情や思いを手話で表現できることに気づき、そこから手話ソングと出会ったのが活動の原点である。その後、本市主催のイベントで手話ソングを披露した際、感銘を受けた観客から「亡き夫を偲び、『千の風になって』を手話で披露したい」との依頼を受けたことを契機に、志を共にする仲間が集まり、チームが結成された。

これまで、本市の芸能大会や公民館のイベント、得生寺中将姫来迎会式のお茶席などに出演し、多くの方々に感動を届けている。年齢を重ねる中で生じる体力や技術の変化にも前向きに向き合い、仲間と支え合いながら何度も練習を重ねたその舞台には、年齢を超えた情熱と希望があふれている。

結成18周年を迎えた現在も、これまで培った絆を大切にし、地域に根ざした活動を着実に続けている。手話と音楽を通じて、地域に生きる喜びと絆を育み、音楽文化のみならず地域文化の発展にも大きく貢献している。